



シニアスペシャリスト  
前田 侑哉

シニアマネージャー  
内藤 祥華

トレンドマイクロ株式会社は、サイバーセキュリティ分野のリーディングカンパニーです。35年以上にわたり、世界の企業と個人ユーザーを守ってきた知見を基に、誰もが安全にデジタル情報を交換できる社会の実現を目指しています。

## 社会と教育の架け橋

### インターネットと教育

# デジタル時代を安全に 生きるための学び

～子どもたちが自ら考え  
判断する力を育てる～

#### 子どもを取り巻くデジタル環境の急変

近年、子どもたちを取り巻くデジタル環境はこれまでにないスピードで変化しています。SNSやオンラインゲームが日常のコミュニケーションの場となり、さらに生成AIの普及により、情報が作られ、拡散される仕組みも大きく変わりつつあります。楽しさや便利さが広がる一方で、情報量やリスクも増えています。その中で、学校や家庭では、思いがけない場面への対応に向き合うことも少なくないようです。

#### 増加するトラブルと教育現場での指導徹底の難しさ

こうした環境の中で、子どもたちがトラブルに巻き込まれず安全にインターネットを使用できるようにすることは、教育現場においても重要な課題とされています。SNSをきっかけとしたトラブルについては、表面化するまでに時間がかかることが多く、早期把握の難しさを感じる声も聞かれます。また最近では、子ども自身が被害者となるだけでなく、加害者となってしまふ事例も見受けられ、指導の難しさはより複雑化しています。例えば、SNSへの投稿を発端に、ひやかしや悪口が広がっていき、へとへと発展したり、子ども同士のトラブルがグループチャット上での中傷投稿につながったりしたことなどが挙げられます。他人になりすましてSNSのDMを通じて、同級生に巧みな言葉で性的な画像を送信させるといった事例も報告されています。家庭ごとのデジタル環境やルール、リテラシーが異なる中で、新しい技術の扱い方やリスクに応じた指導を学校だけで継続

#### 必要なのは「自分で正しく判断する力」

新しいリスクが生まれるたびに「これは危ない」と個別の注意点を伝えるだけでは、変化の速いデジタル環境に十分に対応しきれない場面もあると考えられます。そうした中で、子どもたち自身が置かれている状況を理解し、どのように判断したらよいか考える力を育てていくことが、より重要になってきているのではないのでしょうか。

日常生活では、どのように行動するかを子ども自身が即座に判断する場面が数多くあります。さらに、こうしたやりとりの多くはスマートフォンやPCを介し、大人の目が届きにくい環境で行われます。そのため、「何を信じるか」「いかにリスクを回避するか」「どう行動するか」を自ら選び取る視点を平時から備えておくことが重要です。こうした知識と判断の力は、トラブルの未然防止に寄与する大切な基盤になります。

#### サイバーセキュリティの 知見を生かした教育活動

こうした「知識と判断の力」を教育現場で育む取り組みを支えるため、トレンドマイクロでは、2008年から「インターネットセキュリティ教室」の活動を続けています。今年で19年目となり、2025年には、社員講師が30校以上を訪問し講義を行いました。サイバーセキュリティ専門家として35年以上にわたり培ってきた経験や、最新の脅威動向の把握、注意喚起やリスク回避に関する提案力は、この教室の内容を現実に即したものととして届けるう

えでの強みとなっています。また、日本全国47都道府県の警察機関との連携を通じて、社会で実際に起きているサイバー犯罪や被害事例に基づく情報を、教育活動にも反映しています。

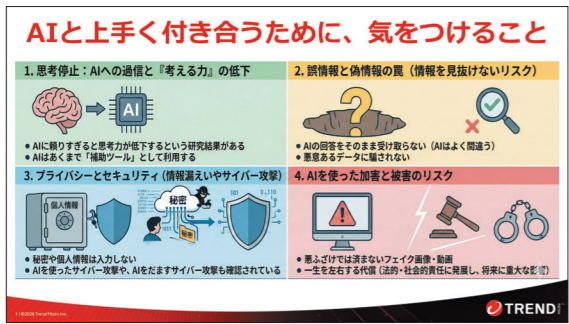
私たちは企業ミッションとして「デジタル情報を安全に交換できる世界」を掲げており、子どもたちの将来のためにも、早い段階からオンラインの安全スキルを身につけることが重要と考えています。

#### 判断力を育てる 「インターネットセキュリティ教室」

「インターネットセキュリティ教室」の対象は主に小学校高学年から中学・高校生で、1コマ45〜50分を基本に実施しています。「スマートフォンを持っていく人?」「SNSを使っている人?」と拳手で確認し、子どもたち自身の日常と地続きの話題について学ぶことを意識してもらおうとところから始め



神奈川県藤沢市立秋葉台中学校での「インターネットセキュリティ教室」の様子



「インターネットセキュリティ教室」で使用するスライドの一例

ます。SNSやオンライン上のやり取りにおいて何に注意し、どう対応すればよいか、個人情報や画像の扱い、誹謗中傷や法的責任、なりすまし、生成AI、闇バイトなど、実際に発生している事例やリスクを基に、その時々状況に応じたテーマを扱っています。テーマごとに実際の被害事例を提示しながら「これ、どうなっちゃったと思う?」と子どもたちと一緒に考えたり、「これはOK?NG?」とクイズ形式で実際のケースを判断したりするなど、参加型の構成で進めています。

情報の見極め方や、やってよいこと・悪いことの線引き、自分や友達を守る行動について、「この場面ではどのように判断するか」「どのような行動が自分や周囲を守ることにつながるか」といった問いかけを通じて、子どもたちが自分の言葉で考えながら学んでいけるよう工夫しています。近年は特にSNS関連についての授業への関心が高く、子どもたちの判断力を求められる場面が増えてきていることがうかがえます。

受講後の子どもたちからは「具体的な場面を想像でき、いざという時の対応が分かった」「投稿前に一度立ち止まって考えたい」といった声も聞かれます。先生方からも「生徒が自分事として考え、普段以上に集中して参加していた」との反応をいただいています。なお、本教室は無料で実施しています。

#### AI時代に必要となる 新しい学び

AIの急速な進化によって、私た

ちの生活はより便利で豊かなものになる一方、新たなリスクも指摘されています。巧妙な文章や画像・動画を誰でも容易に作れるようになったことに加え、AIが誤った内容を事実のように提示してしまう場合もあり、インターネット上の情報の真偽を見極めることは、これまで以上に難しくなっています。加えて、AIへの過度な依存によって、子どもが自ら考える機会が減ってしまうことへの懸念も指摘されています。

こうしたAI特有のリスクを踏まえると、単に使う方を知るだけでなく、情報をうのみにせず、自ら確かめながら正しい情報を選び取り、判断する力を育てることが、これまで以上に重要になります。私たちは、従来の「インターネットセキュリティ教室」の土台に「AI時代の安全教育」に関する視点も取り入れ、新しい教材づくりにも取り組み始めています。一例を挙げると、授業では、現在の生成AIがどのような仕組みで回答しているのかを理解することで、得意不得意がある存在であり、万能ではないという認識を深めます。さらに、進化したAI技術を使って他人になりすますことが、いかに容易かつ巧妙であるかを、デモを通じて体感できるようにしています。このような実体験を通じて、AIの出力や見た目をそのまま信じてしまう危うさに気づき、子どもたちが一度立ち止まって情報を確かめ、自ら考える姿勢へとつなげていきます。

こうした学びが特別な取り組みにとどまらず、教育現場の日常の中に自然に浸透していくよう、私たちは今後も学校や自治体と連携し、子どもたちが安心してデジタル社会を生き抜くための学びを支えていきます。